



暑い夏の日、動物は水浴びが「好き」です

ちょっと聞いてよ!

JA西日本くみあい飼料株式会社中国支店 獣医師 中尾 継幸(なかお つぐゆき)氏

もうすぐ本格的な夏が到来します。以前、東京の上野動物園にて水浴びするエミューの様子を紹介されていました。ダチョウウに似たエミューは元来暑さに強いはずですが、近年の猛暑はさすがに厳しく、毎年シャワーを設置して水浴びをさせているとのこと。シャワーの下で無表情ながら黙々と水を浴びる姿は何とも不思議な光景です。もともと草原で暮らすエミューでさえもこの状態で、暑さ解消のため水浴びを好む動物は多いようです。

では乳牛も水浴びやシャワーが『好き』なのでしょう。これに関する面白い実験があります。それは牛がどの程度『自発的に』水浴びするのかの調査で、夏期にあえて牛舎の外にシャワーを設置し、自由な水浴びを可能とした状態で、二十四頭の牛を用いてその使用傾向を五日間追跡しました。その結果、牛は一日平均二十三回シャ



ワールに出向き、合計三・〇時間水を浴びました。しかし牛によって回数や時間の違いは大きく、全くシャワーに出向かなかった牛もあれば七十八回も出向いた牛もあり、また合計八・二時間と一日の三分の一をシャワーに費やした牛も存在しました。また一回あたりのシャワー時間は約四割が一分以内と短かったものの、平均で十四分、最長では三時間近く水を浴び続けた牛も認められました。よってこの実験では「シャワー

での自由な水浴びに対する『好き嫌い』は、牛によって様々である」と結論付けられ、その要因として時間帯における気温の違いや、シャワーによって頭部が水に濡れることへの嫌悪感の個体差等を、実験データから推察して挙げています。

人間の体は発汗による気化熱にて体温調節がなされますが、シャワーを浴

びることでのこの気化熱によって一時的に体が冷却化されます。よって夏の暑熱対策としてシャワーやスプリンクラーの導入が有効であることは言わず、上の実験でもシャワーを使用した牛は夕方方の体温が対照牛と比べて〇・二℃低いという結果が認められています。しかし暑熱時でもすべての牛が自発的にシャワーに出向くものではなく、水浴びという行為に対する牛の好き嫌いの個体差が大きいことを示したこの実験結果は大変興味深く感じられます。

人間も夏の暑さ凌ぎにはシャワーが効果的ですが、注意すべき点は水の温度です。冷水ではその時こそ涼しく感じるものの、手足の末端が冷えて体からの熱の放出ができず体内に熱が溜まり、反対に体温より高いお湯でも体内に熱が貯留します。またシャワーの後には発汗している状態で直ぐにエアコンの部屋に入らず、うちわや自然な風で汗を蒸発させて体温を下げるのが推奨されています。このように夏のシャワーにも様々な流儀があるようで、人間のみならず牛やその他の動物にとっても、その『極意』は意外にも奥深いのです。

人間の体は発汗による気化熱にて体温調節がなされますが、シャワーを浴びることでのこの気化熱によって一時的に体が冷却化されます。よって夏の暑熱対策としてシャワーやスプリンクラーの導入が有効であることは言わず、上の実験でもシャワーを使用した牛は夕方方の体温が対照牛と比べて〇・二℃低いという結果が認められています。しかし暑熱時でもすべての牛が自発的にシャワーに出向くものではなく、水浴びという行為に対する牛の好き嫌いの個体差が大きいことを示したこの実験結果は大変興味深く感じられます。

人間の体は発汗による気化熱にて体温調節がなされますが、シャワーを浴びることでのこの気化熱によって一時的に体が冷却化されます。よって夏の暑熱対策としてシャワーやスプリンクラーの導入が有効であることは言わず、上の実験でもシャワーを使用した牛は夕方方の体温が対照牛と比べて〇・二℃低いという結果が認められています。しかし暑熱時でもすべての牛が自発的にシャワーに出向くものではなく、水浴びという行為に対する牛の好き嫌いの個体差が大きいことを示したこの実験結果は大変興味深く感じられます。